

そよかぜ診療所での研修を終えて

神戸大学医学部附属病院 初期研修医

廣瀬 ななみ

まず初めに、ご指導いただいた先生方・看護師・理学療法士の方々、そして多方面でサポートいただいた事務職の方々、1ヵ月間ありがとうございました。車のない降雪地域での生活は不自由なものがありました。自分なりに工夫して有意義なものにできたかな、と思います。

大学5年生時に地域医療実習の経験はありましたが、医師となった現在と学生だった当時とで見方がかなり変わりましたし、経験した内容も比較できないほどに深いものとなりました。

外来…いままでプローベを触る程度しか経験のなかったエコー手技でしたが、先生方にプローベの当て方や操作方法、計測方法など何度も反復して教えていただいたことで上達させることが出来ました。訪問診療では看護師さん（または運転手さん）と2人でお宅に向かいますが、何らかの症状がある場合に経過観察可能か、採血を行うか、検査目的に診療所まで連れていくべきかを自分が判断しなければならず、検査も自分で行い、検査結果を読み取り何が考えられてどのように対処するかも考えなければならず、すべての過程に責任が付きまとう状況にストレスを感じました。今までは大学病院や市中病院でしか研修してこず、オーダーさえすれば心エコーや腹部エコー、心電図、CTなどあらゆる検査を実施してもらえて、疑い病名まで記載してくれて、すぐに上級医に相談できるぬるま湯のような環境に身を置いてきたため、今回の研修で地域の診療所で働く先生方の大変さを実感しました。

一方で、心に残る出来事も経験しました。何度か訪問診療で経過を診させていただいた方で、低空飛行ではあったものの安定していた患者さんが亡くなった時のことでした。ご家族さんは皆さん穏やかな表情で、状況をしっかりと受けとめており、あたたかい雰囲気を感じました。病院でのお看取りとは全く違う光景を目の当たりにして在宅医療の別の一面を見ることができました。自分の数少ない経験では、ご家族さんは状況を受け入れられず何度も同じ質問をする方、崩れ落ちる方、泣くばかりの方などがいて、胸が痛む経験しかしたことはありませんでした。在宅介護の大変さを垣間見て、在宅医療が全面的に素晴らしいと言うことはできませんが、患者さんが穏やかに最期を迎えられ、ご家族も納得して看取れる点は在宅医療の醍醐味ではないかと感じました。

今後私は大学病院に戻りなんでも揃った環境に何年も身を置き、高度な医療を患者さんに提供することでしょう。この1ヵ月の診療で感じた“不自由さ”は今後の現場においては感謝の気持ちを芽生えさせる源となるでしょうし、こちらでやっとなり習得した手技はこれからより一層洗練させていけます。単に経験して通り過ぎただけにせず自分なりに昇華させていきたいと思えます。皆さまお世話になりました。寒い季節なのでご自愛ください。